

令和2年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課

令和2年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

※ 令和2年度は、コロナ禍における学校の教育活動等に対する生徒及び保護者の意見を把握するため、調査項目を新たに追加しました。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校運営協議会委員	全県立高校の学校運営協議会委員

II 実施時期 令和3年1月～令和3年3月

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	96	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、横浜氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、麻溝台、上鶴間、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、横須賀南、平塚江南、高浜、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、小田原東、西湘、逗子、逗葉、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、秦野、秦野曾屋、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、大和、大和南、大和東、大和西、伊勢原、伊志田、海老名、有馬、座間、足柄、綾瀬、綾瀬西、寒川、大磯、二宮、大井、山北、愛川
		単位制	14	神奈川総合、横浜旭陵、横浜緑園、横浜桜陽、横浜清陵、横浜栄、川崎、大師、相模原弥栄、平塚湘風、藤沢清流、小田原、三浦初声、厚木清南
	総合学科	単位制	7	鶴見総合、金沢総合、麻生総合、相模原総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合
	専門学科	学年制	19	神奈川工業、白山、二俣川看護福祉、商工、上矢部、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、相原、津久井、横須賀工業、平塚農商、平塚工科、藤沢工科、小田原東、小田原城北工業、厚木商業、厚木北、中央農業
		単位制	7	横浜国際、神奈川総合産業、相模原弥栄、海洋科学、横須賀南、三浦初声、吉田島
	定時制	普通科	学年制	7
単位制			6	横浜明朋、相模向陽館、川崎、湘南、小田原、厚木清南
総合学科		単位制	5	磯子工業、向の岡工業、神奈川総合産業、高浜、秦野総合
専門学科		学年制	2	神奈川工業、小田原城北工業
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

IV 実施内容

1 生徒向けアンケートの回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率	
全日制	普通科	学年制	28,111 名	22,172 名	78.9 %
		単位制	3,521 名	2,690 名	76.4 %
	総合学科		1,868 名	1,422 名	76.1 %
	専門学科		3,812 名	3,199 名	83.9 %
定時制		924 名	645 名	69.8 %	
通信制		370 名	333 名	90.0 %	
全体		38,606 名	30,461 名	78.9 %	

2 アンケートの質問項目

1 生徒向けアンケート

今までの高校生活を振り返って

- (1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。
- (3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。
- (4) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。
- (5) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (6) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (7) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

- (1) 臨時休業期間中、通学時と同様に、規則正しい生活を送ることができたと思いますか。
- (2) 臨時休業期間中、計画的に学習を進めることができたと思いますか。
- (3) 臨時休業期間中、学校がオンラインで提供した課題により、必要な学習を進めることができたと思いますか。
- (4) 臨時休業期間中、学校に行けないことにより、学習面や生活面について不安を感じていましたか。
- (5) 学校では感染症対策が十分に行われていたと思いますか。
- (6) 学校生活における学習活動や健康観察などの場面で、昨年度までと比べてICTを活用する機会が増えたと思いますか。
- (7) 学校再開後、進路実現に向けた指導を十分に受けることができたと思いますか。
- (8) 学校再開後に行われた学校行事について、参加することで学校生活が充実したものになるなど、有意義なものだったと思いますか。（該当する学校行事が思い出せない場合は、回答しないでください。）
- (9) （部活動に加入している人に伺います。部活動に加入していない人は回答しないでください。）学校再開後の部活動の状況について、コロナ禍の中であることを考えると、自分としては満足できるものだったと思いますか。

2 保護者向けアンケート

今までの高校生活を振り返って

- (1) 生徒本人の高校生活を振り返って、本人が通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。
- (3) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (4) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (5) 生徒本人が高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たせたと思いますか。

令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

- (1) 臨時休業期間中、生徒本人は、通学時と同様に、規則正しい生活を送ることができたと思いますか。
- (2) 臨時休業期間中、生徒本人は、計画的に学習を進めることができたと思いますか。
- (3) 臨時休業期間中、生徒本人は、学校がオンラインで提供した課題により、必要な学習を進めることができたと思いますか。
- (4) 臨時休業期間中、学校に行けないことにより、生徒本人が学習面や生活面について不安を感じていたと思いますか。
- (5) 生徒本人の状況から、学校では感染症対策が十分に行われていたと思いますか。
- (6) 学校生活における学習活動や健康観察などの場面で、昨年度までと比べて、生徒本人がICTを活用する機会が増えたと思いますか。
- (7) 学校再開後、生徒本人が進路実現に向けた指導を十分に受けることができたと思いますか。
- (8) 学校再開後に行われた学校行事について、生徒本人が参加することで学校生活が充実したものになるなど、生徒本人にとって有意義なものだったと思いますか。（生徒の参加した学校行事が思いつかない場合は、回答しないでください。）
- (9) （生徒本人が部活動に加入している保護者の方に伺います。生徒本人が部活動に加入していない保護者の方は回答しないでください。）学校再開後の部活動の状況について、コロナ禍の中であることを考えると、生徒本人としては満足できるものだったと思いますか。

V 結果の概要（次項以降）

1 生徒向けアンケート結果

- ・今までの高校生活を振り返って
- ・令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

2 保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

- ・今までの高校生活を振り返って
- ・令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

3 学校運営協議会委員の意見

1 生徒向けアンケート結果

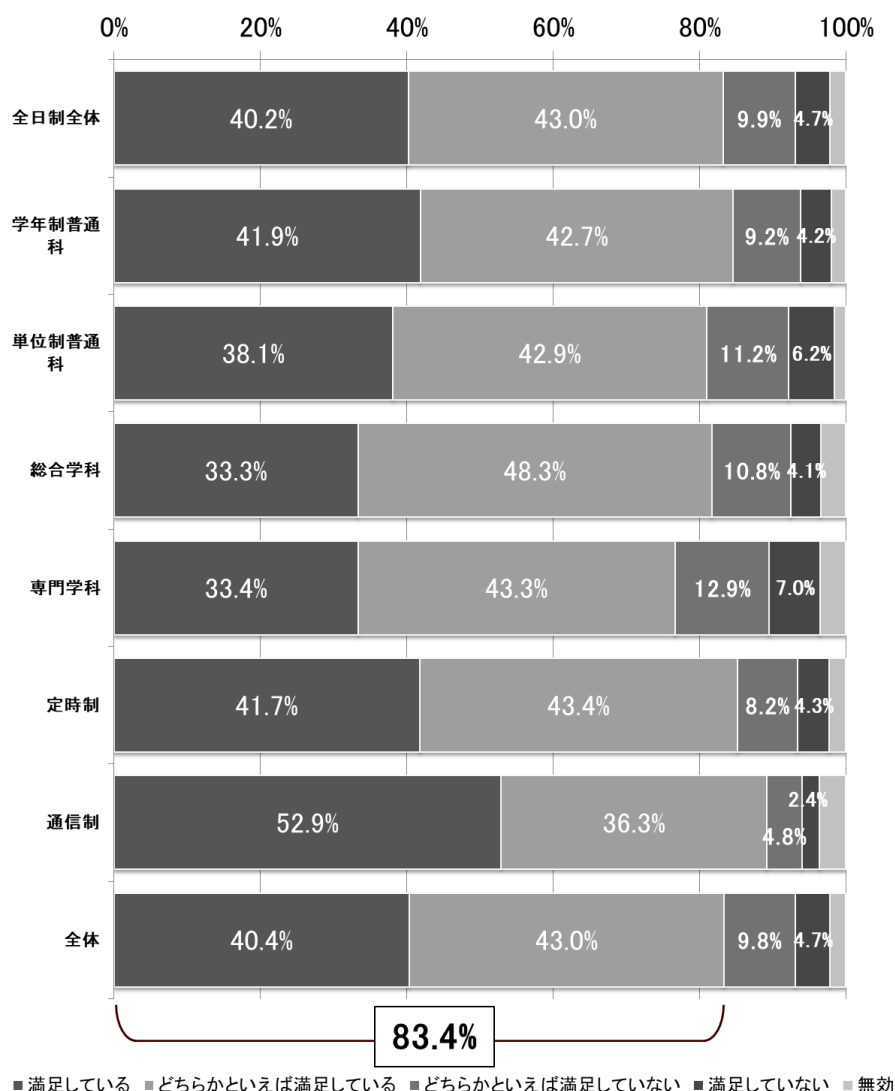
学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

なお、令和2年度のアンケートは、コロナ禍における学校の教育活動等に対する生徒及び保護者の意見を把握するため、調査項目を新たに追加しました。

今までの高校生活を振り返って

(1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。

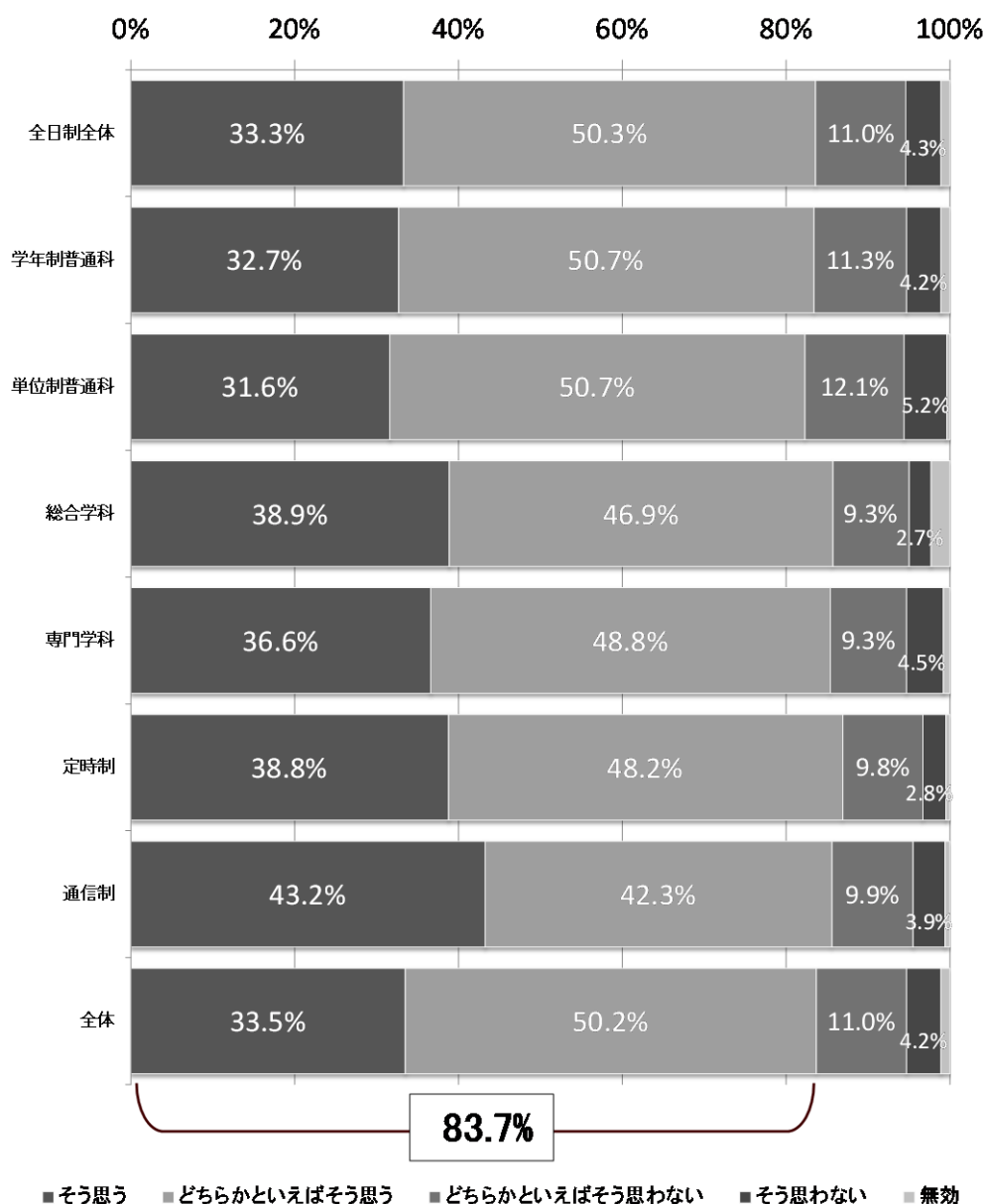
この質問項目に対して、「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の83.4%となった。令和元年度の満足群（79.9%）と比較すると、その割合は増加した。また、通信制の生徒の半数以上が「満足している」と回答しており、高校生活に対する満足度が高いことが伺えた。今後も引き続き多様化する生徒・保護者のニーズに応えた教育活動による魅力ある県立高校づくりのさらなる推進が必要である。



(2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」

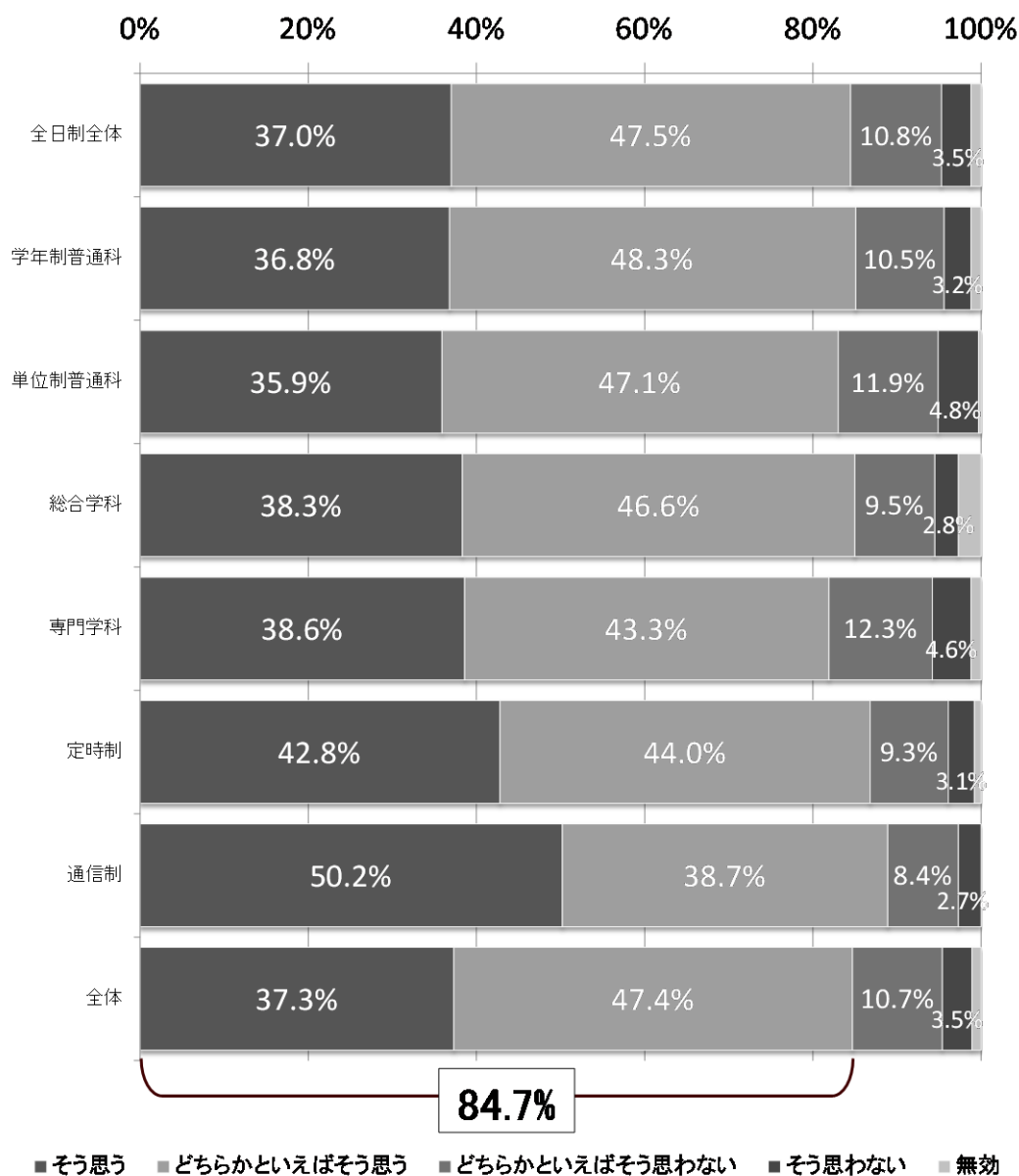
により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒（以下「肯定群」という。）は、回答者全体の83.7%となった。令和元年度の肯定群（79.4%）と比較すると、その割合は増加した。引き続き生涯を通じた自分の生き方・あり方について考える取組を充実させることが必要である。



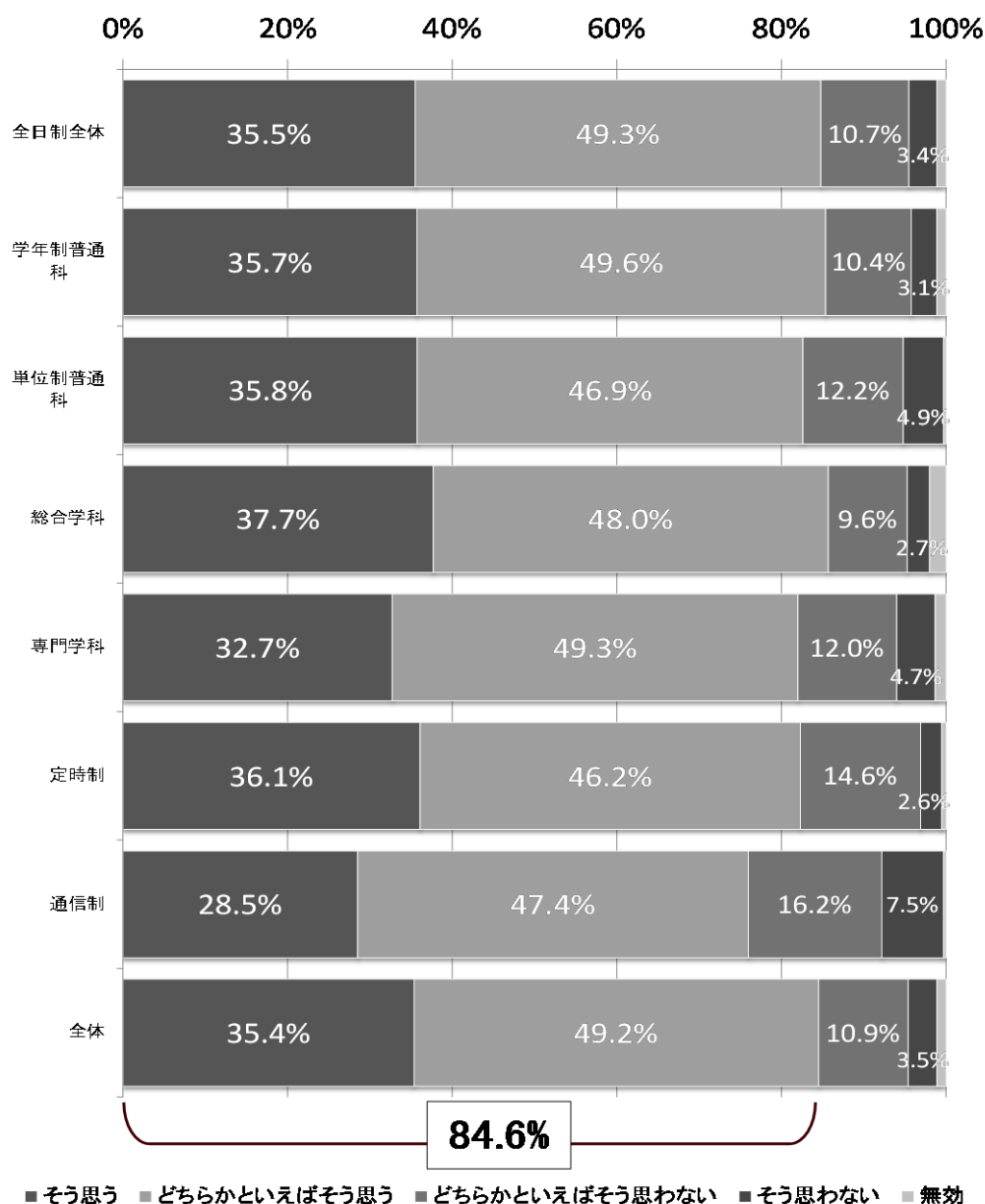
(3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の84.7%となった。令和元年度の肯定群（80.1%）と比較すると、その割合は増加した。またどちらも肯定群は8割を超えており、引き続き自己の進路への自覚を深める取組を充実させたり、教育の質の保証に取り組んだりする必要がある。



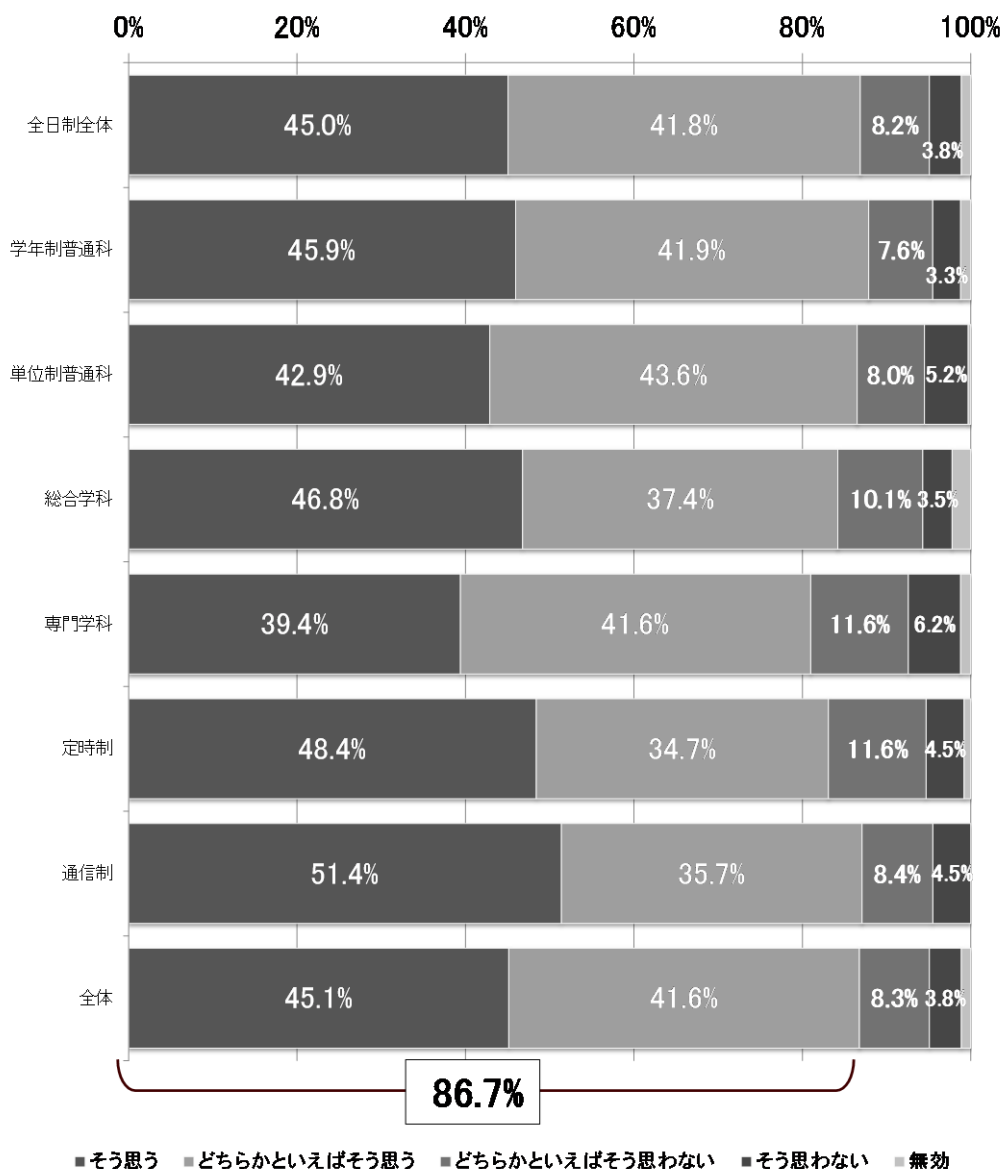
(4) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の84.6%となった。令和元年度の肯定群（79.3%）と比較すると、その割合は増加した。またどちらも肯定群は8割を超えており、引き続き主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を高める取組を推進する必要がある。



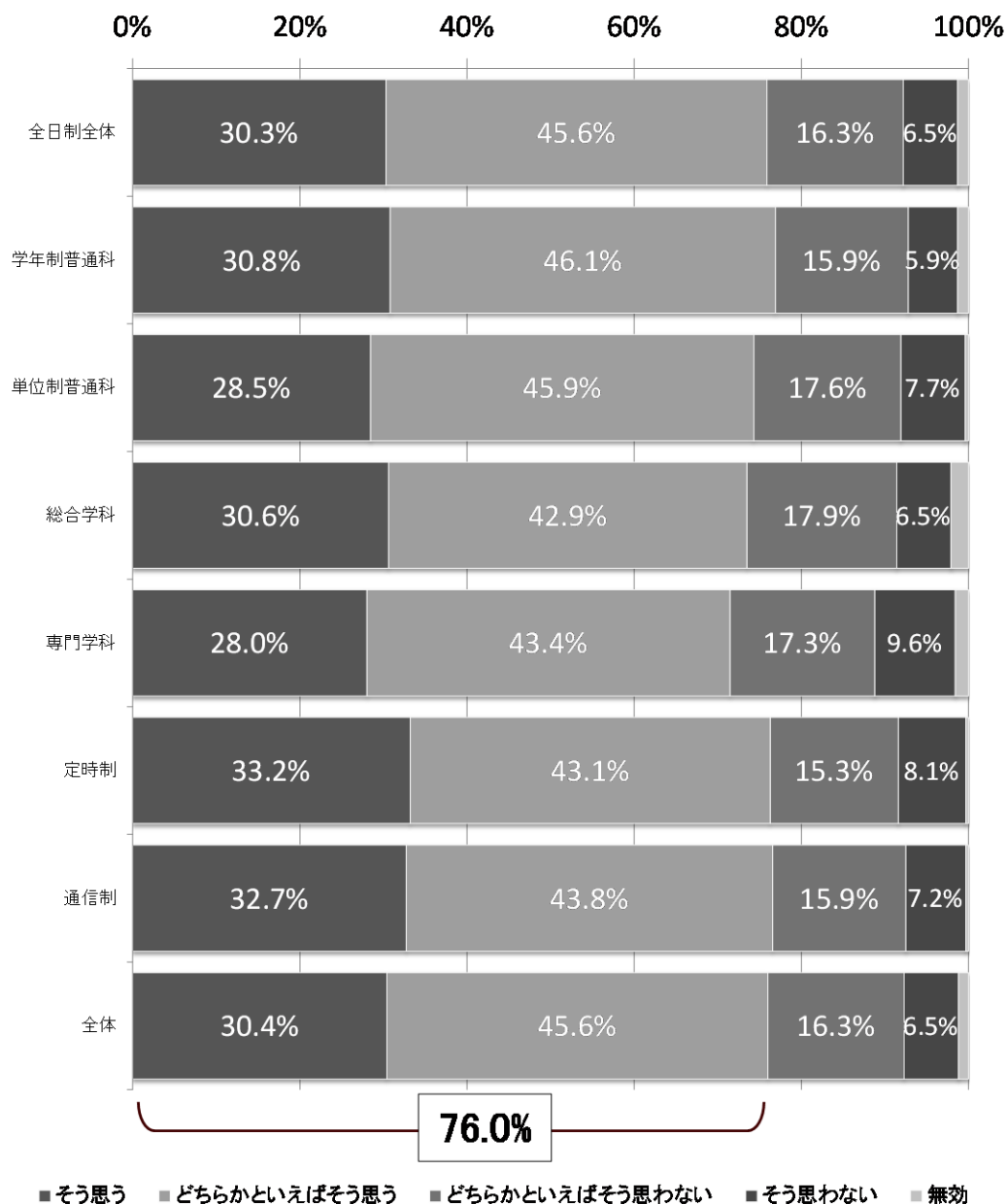
(5) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の86.7%となった。令和元年度の肯定群（83.1%）と比較すると、その割合は増加した。どちらも肯定群は8割を超えており、引き続きいのちの大切さや他人への思いやりを学ぶ「いのちの授業」等の取組により、高校生活を通じて、他者への理解を深めさせることが必要である。



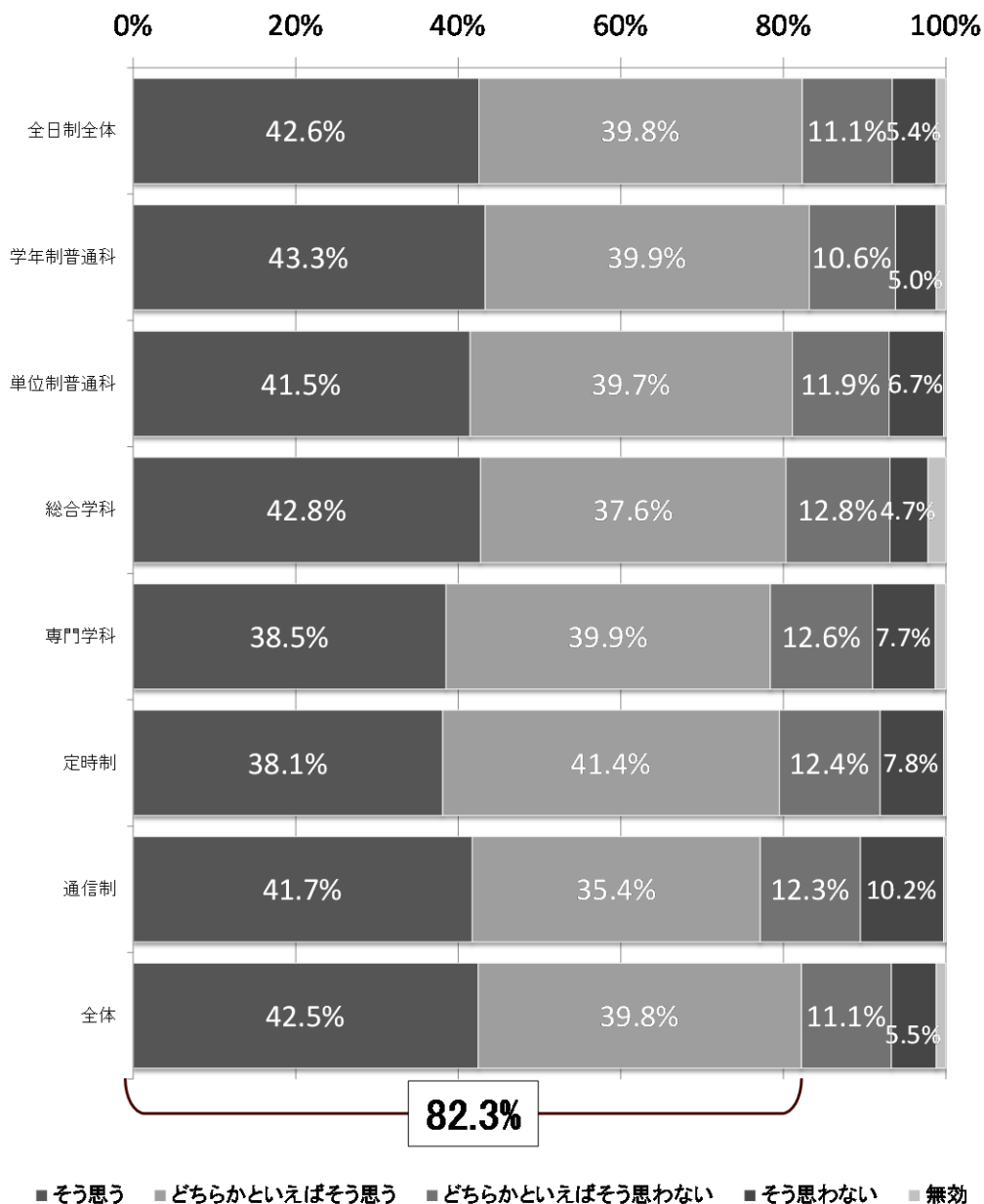
(6) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の76.0%となった。令和元年度の肯定群（71.6%）と比較すると、その割合は増加した。今後は、全県立高校へ導入となったコミュニティ・スクールをさらに活用する等、地域との協働の機会をより多く設けることが必要である。



(7) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

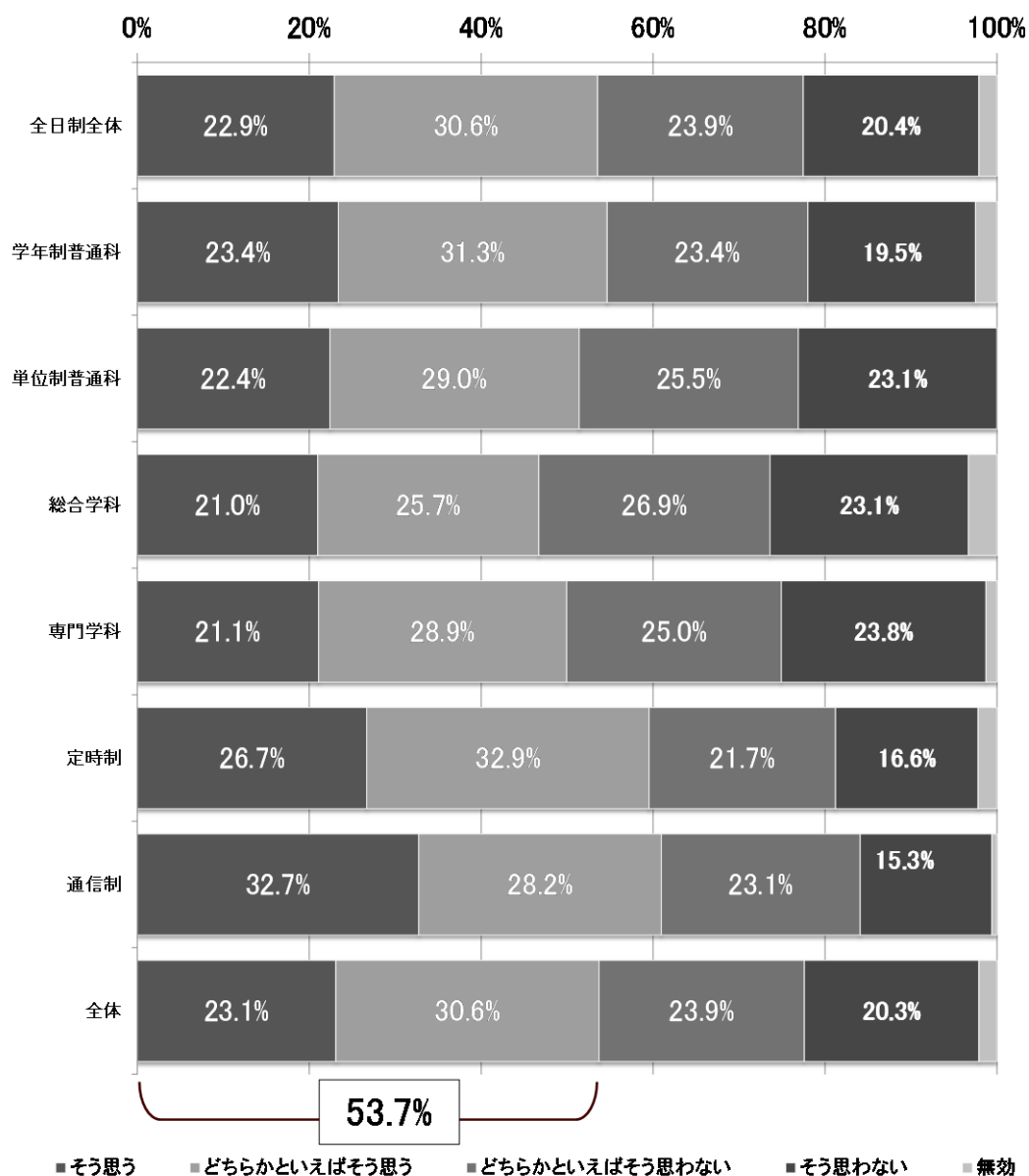
この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の82.3%となった。令和元年度の肯定群（79.3%）と比較すると、その割合は増加した。どちらも肯定群は約8割であり、今後も引き続き、生徒が主体的に活動する授業等の取組により、自己肯定感等を育成し、将来に対しての夢や可能性を広げることができるよう取り組む必要がある。



令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

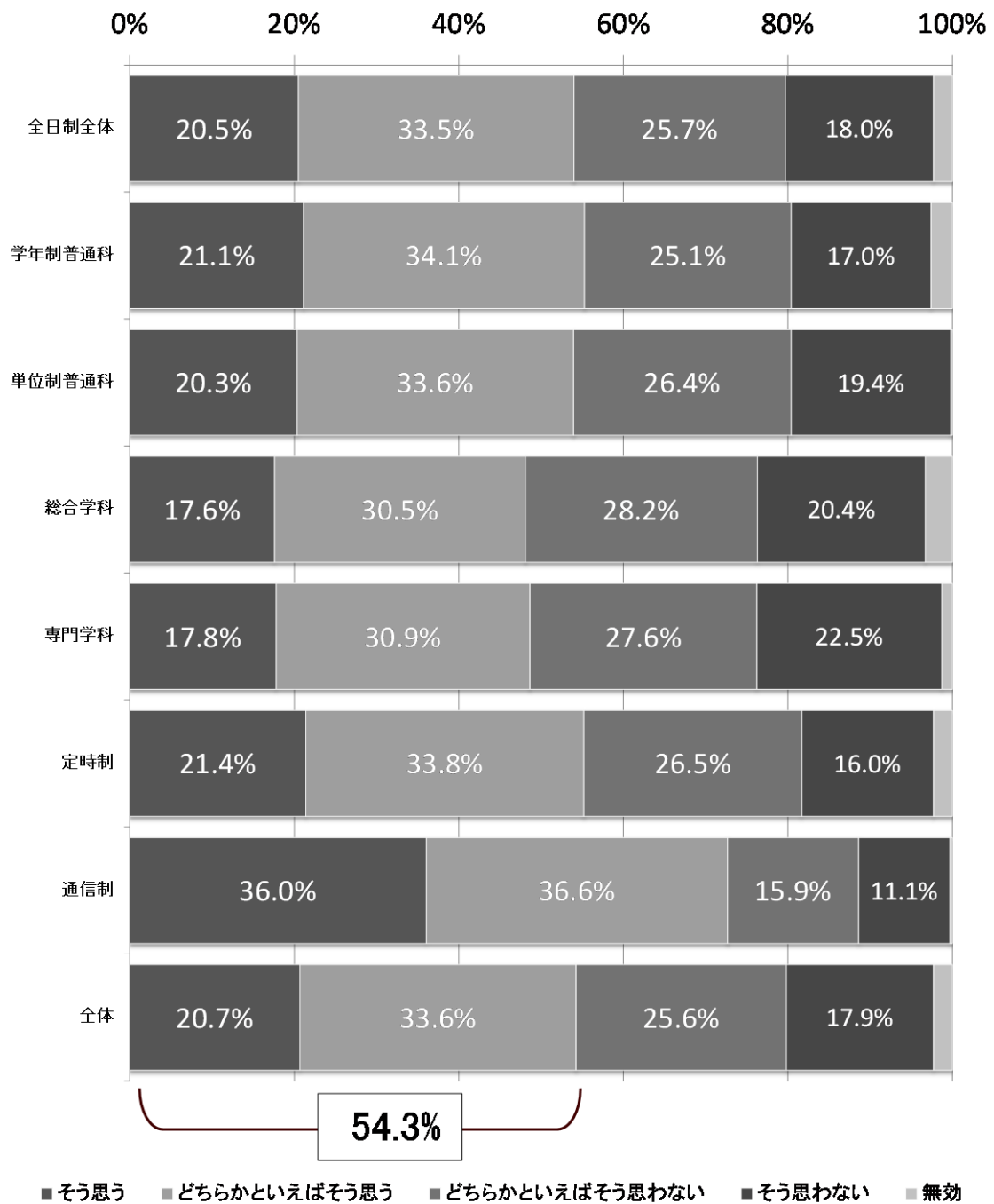
（1）臨時休業期間中、通学時と同様に、規則正しい生活を送ることができましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の53.7%となった。約5割の生徒が臨時休業期間中、規則正しい生活を送ることができた。定時制及び通信制の生徒の肯定群は約6割であった。



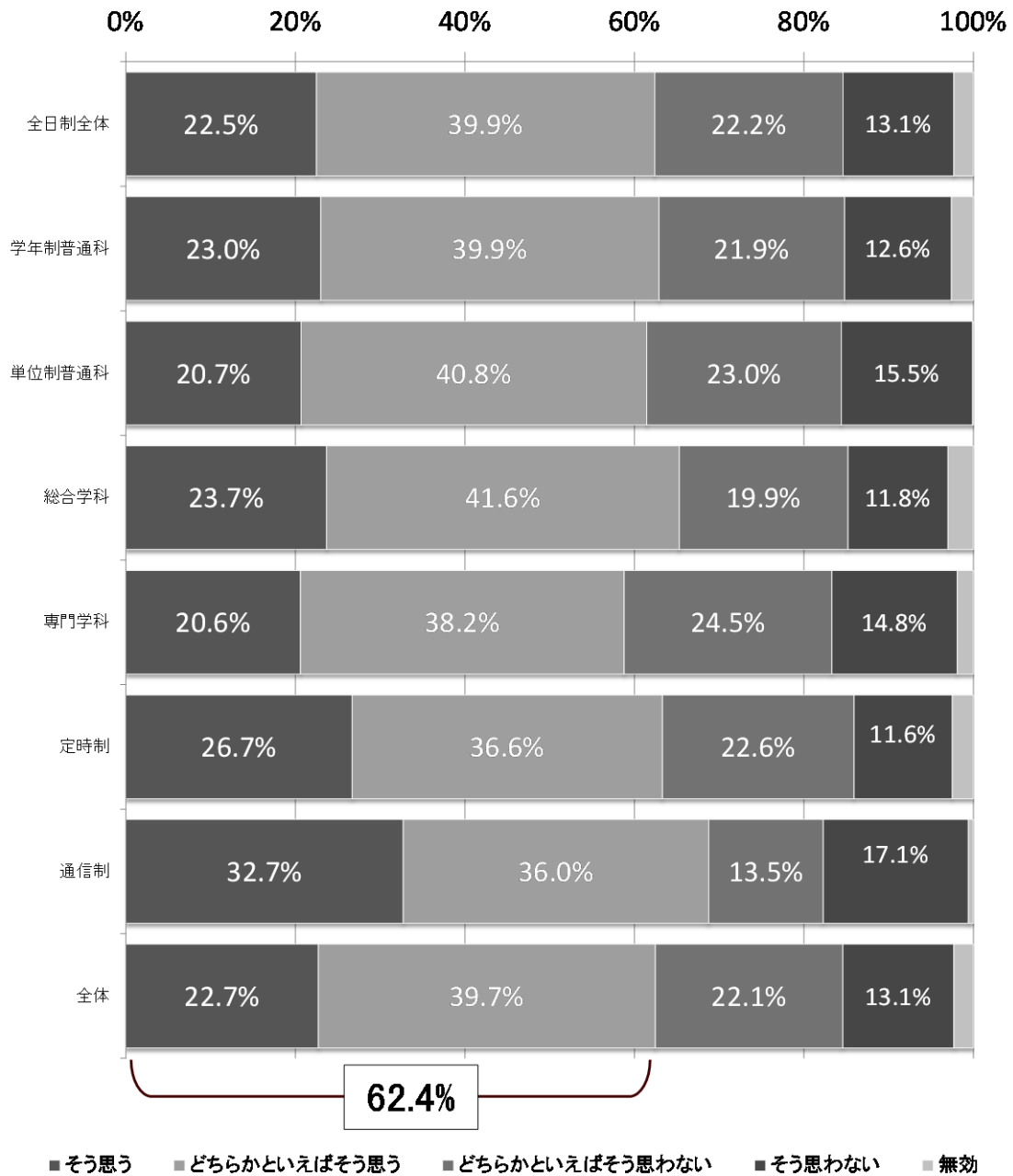
(2) 臨時休業期間中、計画的に学習を進めることができましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の54.3%となった。約5割の生徒が臨時休業期間中、計画的に学習を進めることができた。通信制の生徒の肯定群は約7割であった。



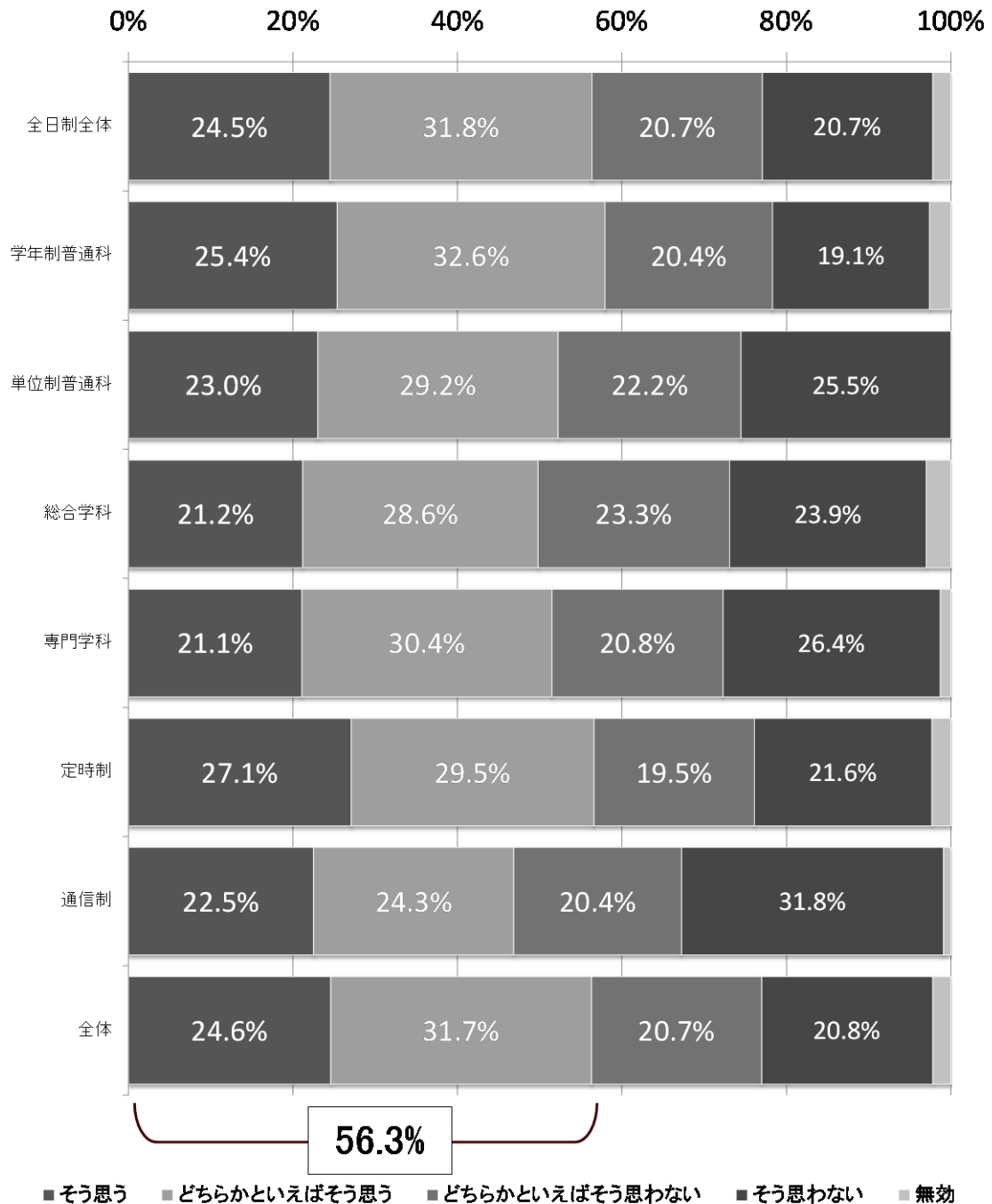
(3) 臨時休業期間中、学校がオンラインで提供した課題により、必要な学習を進めることができましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の62.4%となった。約6割の生徒が臨時休業期間中、学校がオンラインで提供した課題により、必要な学習を進めることができた。



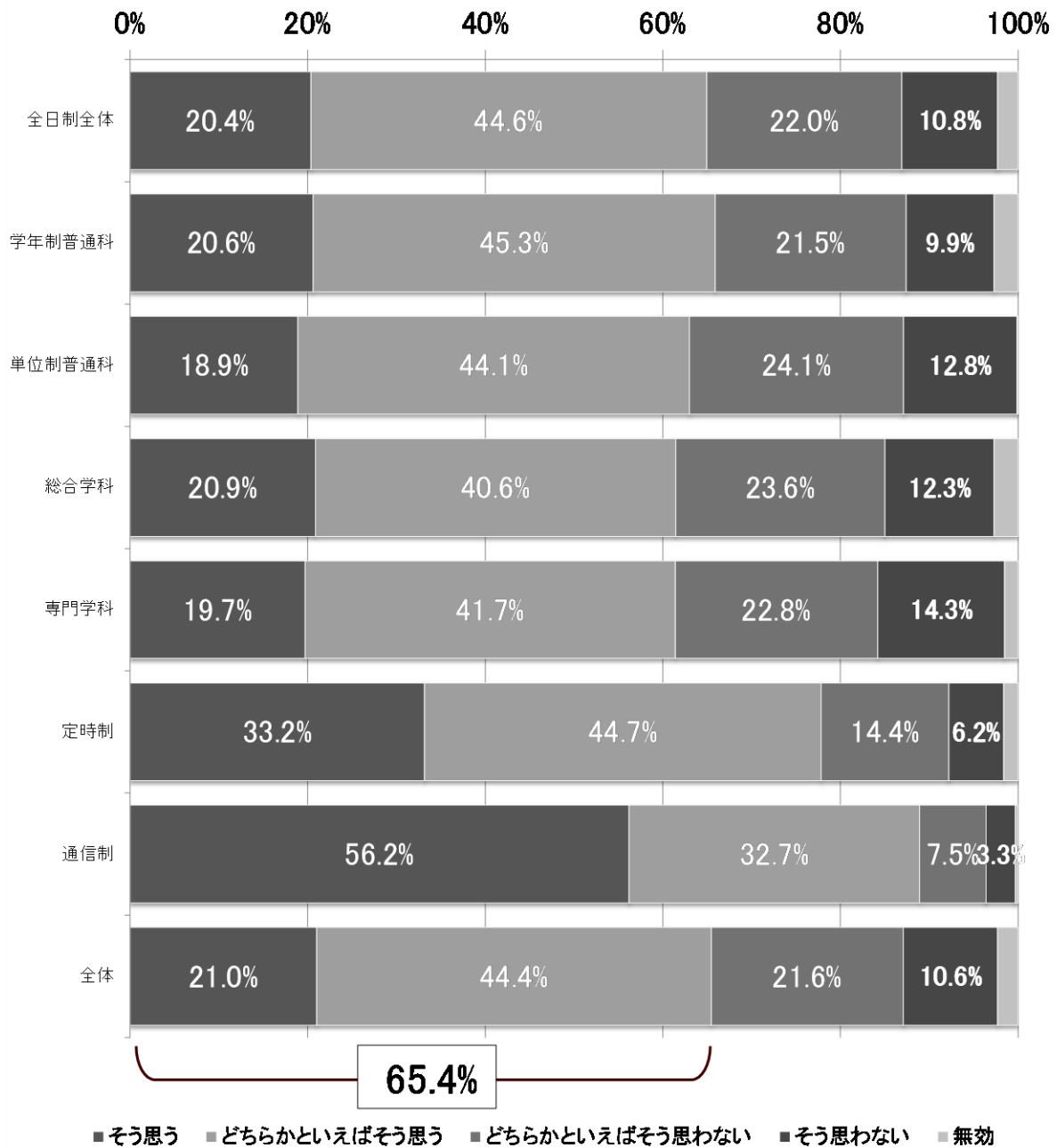
(4) 臨時休業期間中、学校に行けないことにより、学習面や生活面について不安を感じていましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の56.3%となった。約5割の生徒が臨時休業期間中、学校に行けないことにより、学習面や生活面について不安を感じていた。



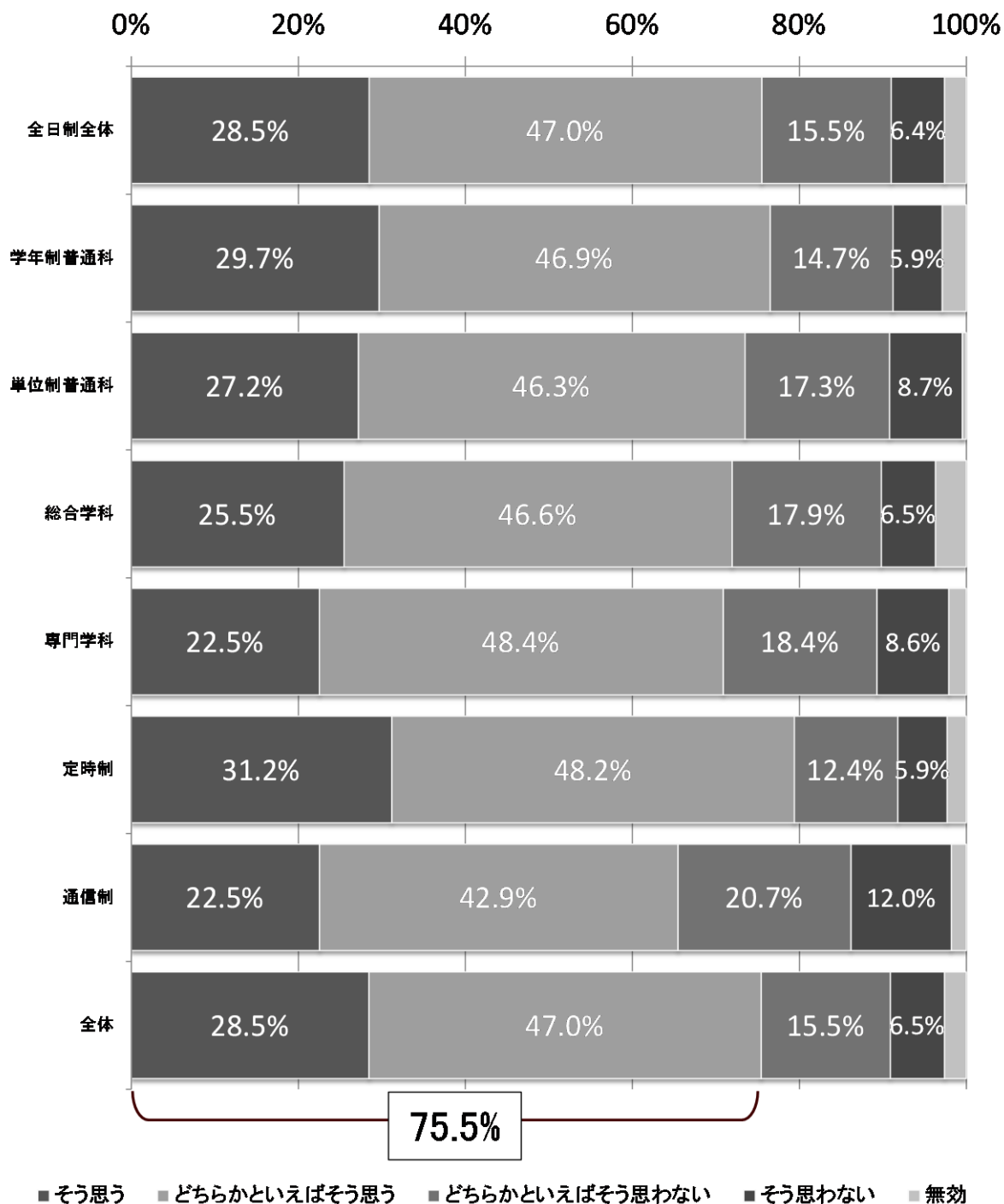
(5) 学校では感染症対策が十分に行われていたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の65.4%となった。約6割の生徒が、学校の感染症対策が十分に行われていたと回答した。定時制及び通信制の生徒の肯定群は約8割であった。



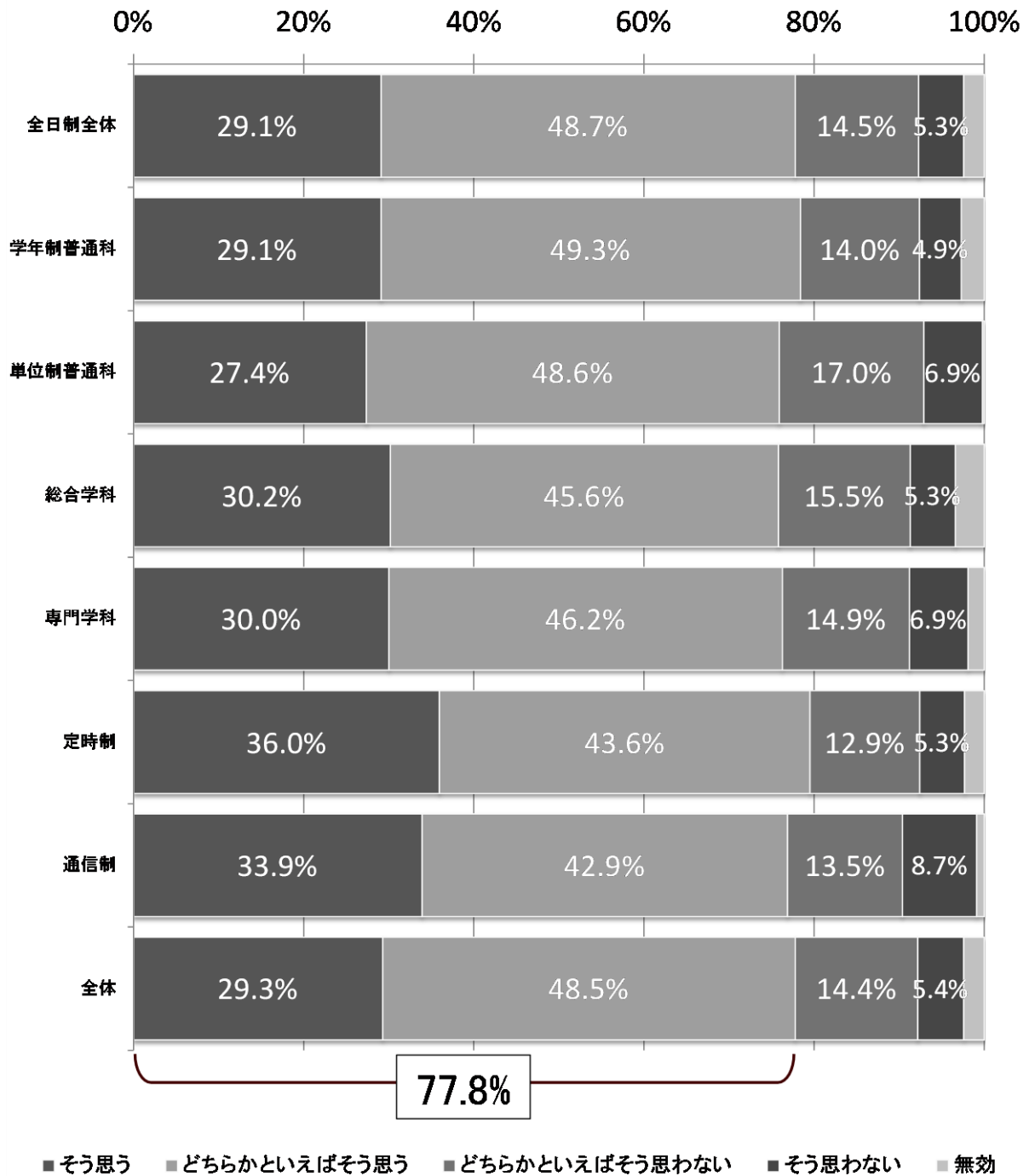
(6) 学校生活における学習活動や健康観察などの場面で、昨年度までと比べてICTを活用する機会が増えたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の75.5%となった。約7割の生徒が、昨年度までと比べてICTを活用する機会が増えたと回答した。定時制の肯定群は約8割であった。



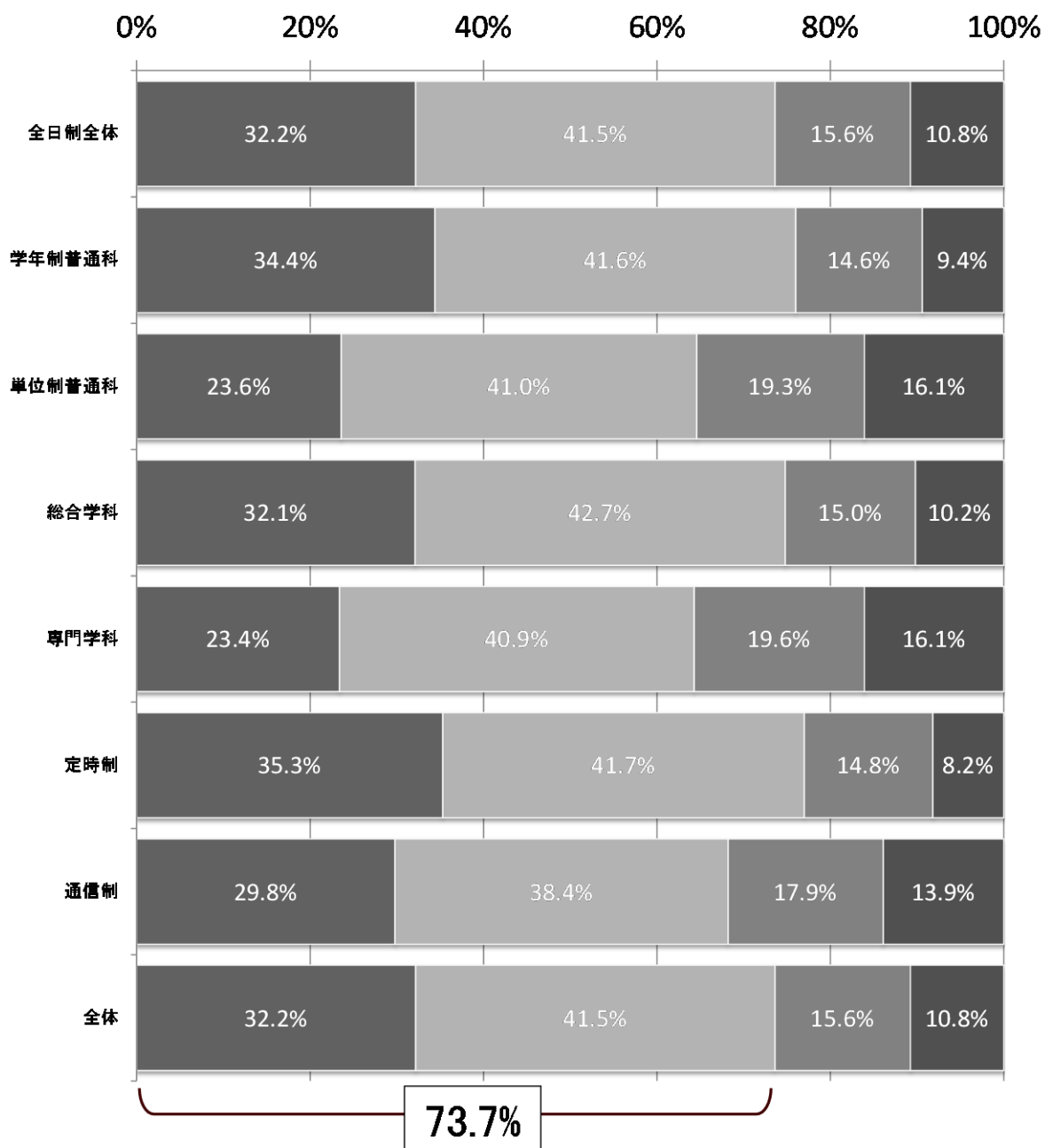
(7) 学校再開後、進路実現に向けた指導を十分に受けることができましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の77.8%となった。約8割の生徒が、学校再開後、進路実現に向けた指導を十分に受けることができましたと回答した。



(8) 学校再開後に行われた学校行事について、参加することで学校生活が充実したものになるなど、有意義なものだったと思いますか。(該当する学校行事が思い出せない場合は、回答しないでください。)

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の73.7%となった。回答した生徒の約7割が、学校再開後に行われた学校行事について、参加することで有意義なものだったと回答した。

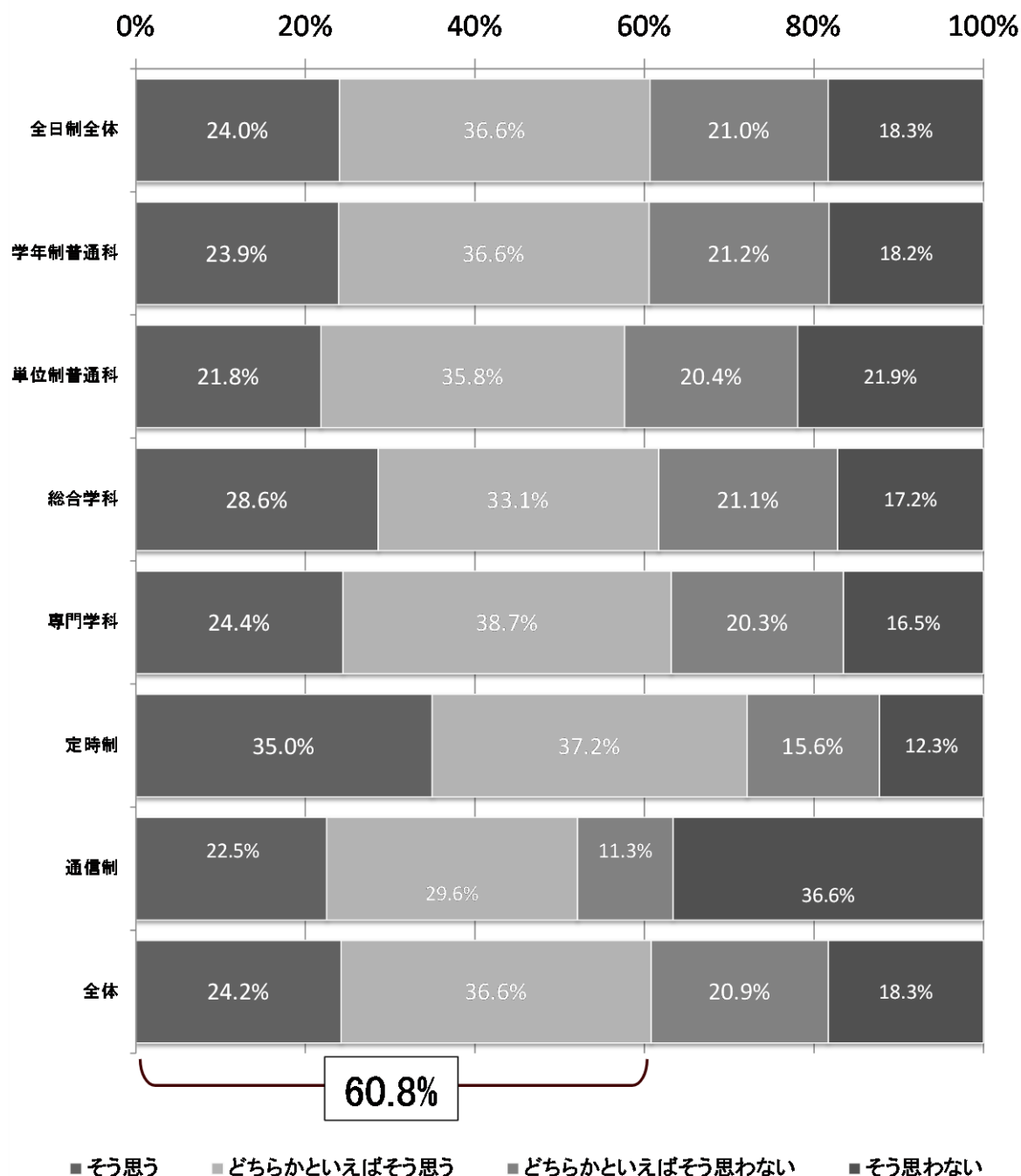


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

※該当する学校行事が思い出せない場合は、回答しないため、無回答は結果に含みません。

(9) (部活動に加入している人に伺います。部活動に加入していない人は回答しないでください。)
 学校再開後の部活動の状況について、コロナ禍の中であることを考えると、自分としては満足
 できるものだったと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の60.8%となった。回答した生徒の約6割が、学
 校再開後の部活動の状況について、満足できるものだったと回答した。



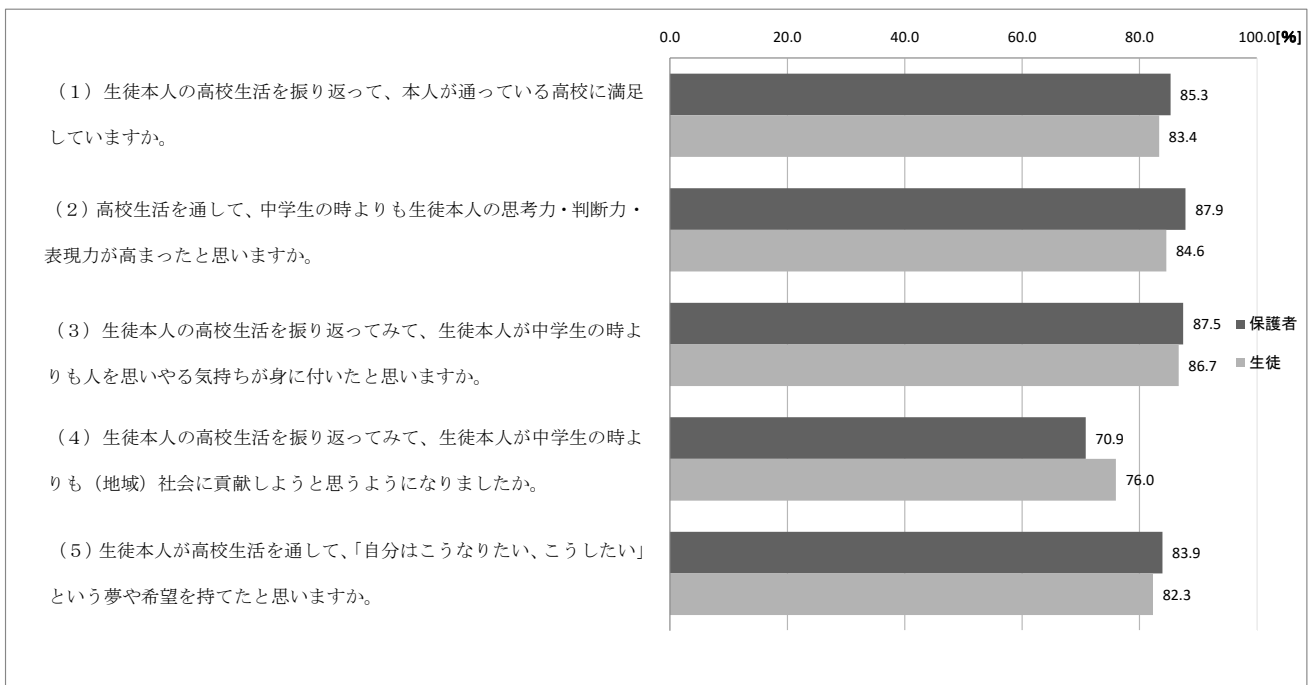
※部活動に加入していない人は、回答しないため、無回答は結果に含みません。

2 保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

今までの高校生活を振り返って

生徒と保護者共通の質問項目について、(1)は満足群の割合を、(2)～(5)は肯定群の割合を比較した。

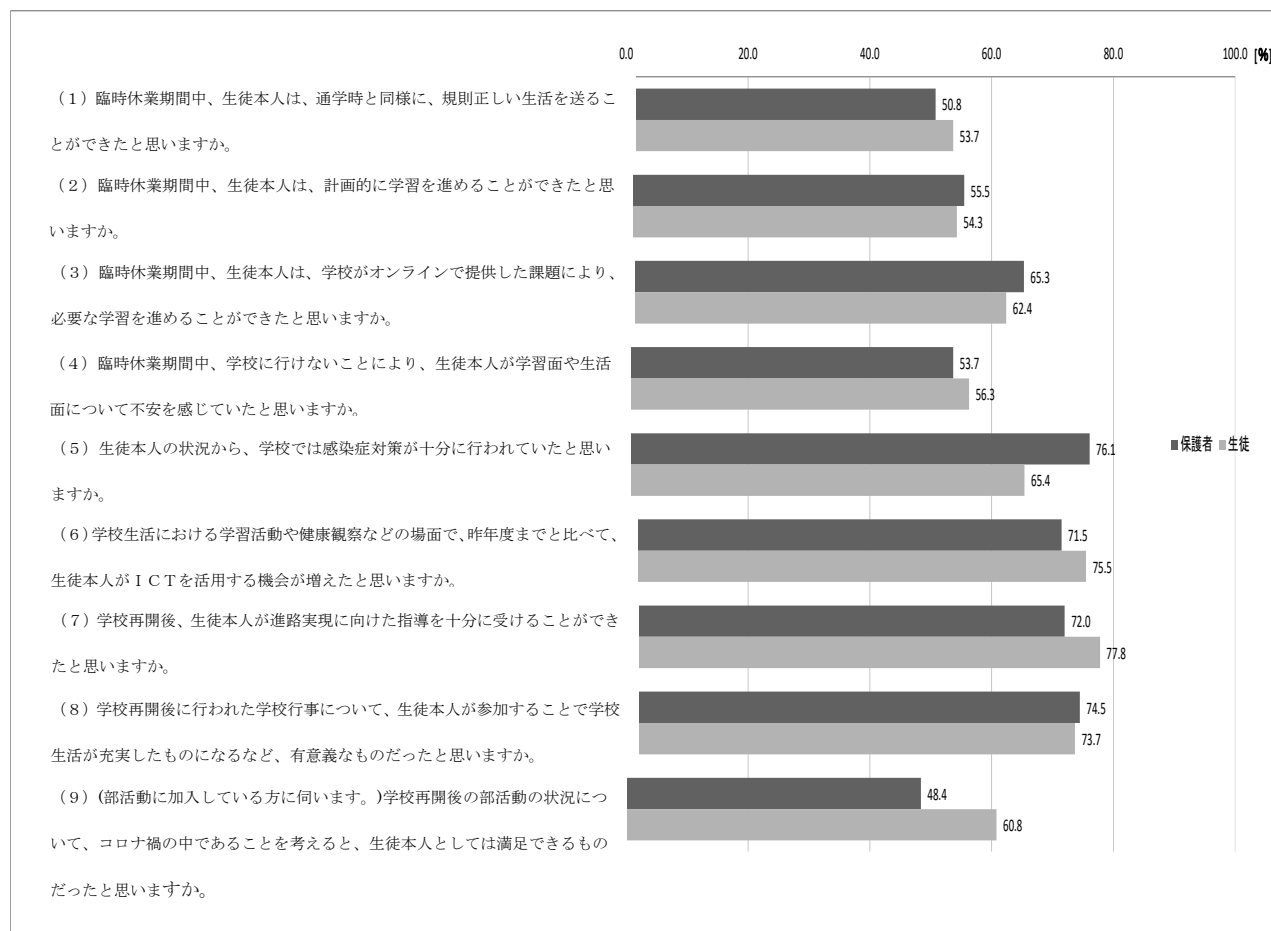
保護者の満足群及び肯定群の割合は、生徒の割合よりも高いものが多かったが、生徒と保護者の回答で大きな差はなかった。生徒と保護者の回答で差が大きかった質問項目は、(2)と(4)である。(2)の「高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。」については、生徒(84.6%)と保護者(87.9%)の肯定群の割合を比較すると、保護者の方が3.3ポイント高かった。(4)の「生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。」については、生徒(76.0%)と保護者(70.9%)の肯定群の割合を比較すると、生徒の方が5.1ポイント高かった。



令和2年2月以降の状況を振り返って（コロナ禍における学校の教育活動等に対する意見）

生徒と保護者共通の質問項目について、肯定群の割合を比較した。

生徒と保護者の回答で、差が大きかった質問項目は、（５）と（９）である。（５）の「学校では感染症対策が十分に行われていたと思いますか。」については、生徒（65.4%）と保護者（76.1%）の肯定群の割合を比較すると、保護者の方が10.7ポイント高かった。（９）の「（部活動に加入している人に伺います。）学校再開後の部活動の状況について、コロナ禍の中であることを考えると、自分としては満足できるものだったと思いますか。」については、生徒（60.8%）と保護者（48.4%）の肯定群の割合を比較すると、生徒の方が12.4ポイント高かった。



3 学校運営協議会委員の意見

【対 象】 全県立高校の学校運営協議会委員

【対象校】 全県立高等学校

【内 容】 各校の学校運営協議会に期待することなど、自校のコミュニティ・スクールでの活動を通しての意見

【意見集約の方法】 各学校において、学校運営協議会を通じて伺った意見を取りまとめた。

- 令和4年度から始まる教育課程においては「主体的・対話的な深い学び」を中心に据えた教育課程の展開と、PDCAサイクルを活用した「評価・改善」の視点を日常的に意識する組織となることが重要。
- コロナ禍を通して、学校教育における本質的な課題、運用的な課題について組織レベルで今後に生かしていくことを考えていかななくてはならない。
- Society5.0の新しい時代に向けて、教育計画を進めて欲しい。
- 多くのボランティア活動への参加が見られ、他者を思いやる力が育成されていると思う。このような状況下で難しいところであるが、ぜひ積極的に参加してもらいたい。
- 近隣の小中学校、特別支援学校、地域との良好な関係を生かした教育活動を継続実施し、生徒の成長支援と地域貢献の両立を図ってほしい。
- 対面が難しい状況下では、ICTを活用して地域と連携するのはどうか。
- ICTの活用により勉強はできているが、生徒の体力面や、精神的な不安への配慮をお願いしたい。
- コロナ禍での生徒の心のケアと教職員の健康に留意してほしい。
- ICTを活用して生徒自身で課題を解決していく授業展開の工夫や、生徒との情報伝達および共有のツールとして利用することもすすめてほしい。
- 大学でもオンラインを活用した授業が増えている。レポートを書く能力が向上するような授業を高校でも展開してほしい。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現目標をICTの活用・Classroomの活用で達成でき、生徒の学びを止めないという姿勢が感じ取れる。
- Google Classroomを活用した課題提示や健康観察を行ったことは高く評価できる。
- ICTの活用について、生徒達が総じて肯定的に捉えている点が成果である。高校生活を振り返るアンケートでは満足している生徒が多かった。
- ICT活用による課題の配信や提出は、学校外での学習を促すことも期待されるので、教職員・生徒ともに過重な負担にならないよう配慮しながら、しっかり取り組んでほしい。
- オンライン授業の取組が素晴らしい。中学校にも情報提供をお願いしたい。
- 登校時刻をずらしているが、トラブル等が無く、きめ細かな生徒指導のおかげと感謝している。
- 体育祭、文化祭、球技大会等を生徒の主体性を損なわず、新型コロナウイルス感染症感染防止を徹底して実施し、生徒の成長を促した。
- コロナ禍の下、学校行事、部活動など可能な範囲で最大限に取り組んでおり、昨年度から引き続き生徒主体の運営により、行事・部活動を通じた生徒の成長をめざして欲しい。
- コロナ禍での学校行事に配慮があり、生徒のモチベーション向上につながった。
- 今年度の状況下で、より良い教育環境の向上のためにどの部分を進めていくことが効果的かを見極め、情報共有していく必要がある。
- コロナ禍における部活動、授業方法の見直し、学びを止めずに教育活動を継続していることが評価から分かる。